

# ブラームスの交響曲における金管楽器の強弱記号

長谷川 正 規\*

(平成27年8月28日受付；平成27年10月28日受理)

## 要 旨

本研究では、J.ブラームスの4つの交響曲において、金管楽器に示されている強弱記号に着目した。木管楽器・弦楽器のいずれとも異なっているところを〈金管楽器に特別な強弱記号が設定されている箇所〉と位置づけ、交響曲にどのように出現しているかの調査を行った。

その結果、次のことが明らかになった。まず、〈金管楽器に特別な強弱記号が設定されている箇所〉はすべての交響曲に表れていた。また時代が進むにつれてこうした箇所は減少する傾向にあった。金管楽器（およびティンパニ）にf、他にはffという設定が多かったものの、金管セクションの中でも楽器により異なる箇所や、強弱の変化を表す記号により差がつけられている箇所もみられた。

このようなブラームスが特別な配慮を求めた箇所については、奏者がそれを意識して演奏することで、より作曲者の意図を反映した音楽表現が可能になるだろう。

## KEY WORDS

ブラームス J.Brahms, 交響曲 symphony, 金管楽器 brass instruments, 強弱記号 dynamics marks

## 1 はじめに

J.ブラームス作曲《交響曲第2番》第4楽章最後の部分は全管弦楽器のffである（ティンパニのみf）が、その前の部分では金管楽器のみf、他の楽器はffが指示されている（譜例1、譜例2）<sup>1)</sup>。

譜例1 交響曲第2番 第4楽章（419-420小節目）

譜例2 交響曲第2番 第4楽章（397-398小節目）

これは、単にバランスを整える目的のみならず、遠近感やサウンドの変化をもたらす効果があると考えられる。つまり、こうしたダイナミクスの設定もオーケストレーションの重要な要素といえる。本研究では、ブラームスの交響曲におけるこのようなケースについて調べあげ、その傾向や特徴について明らかにすることを目的とする。

\*芸術・体育教育学系

## 2 調査について

ブラームスが作曲した4つの交響曲について、〈金管楽器に特別な強弱記号が設定されている箇所〉として、次のように条件を設定し、これを満たす箇所を抜き出した。

- ・金管楽器に設定されている強弱記号に着目し、木管楽器・弦楽器のいずれとも異なる箇所を調査した。
- ・ただし、明らかなソロ、ソリや金管楽器だけで演奏される部分は除外した。
- ・ティンパニについては、その機能を考慮し、金管楽器と同様の強弱記号であっても条件に合致するとした。
- ・強弱に関する記号のうち、基本的にはp, f等単独でその場の強弱を示す記号に着目するが、cresc.等強さの変化に関する記号、sf等特定の音を強調する記号についても取り上げた。
- ・più f等、それまでと比較して強弱を示す記号の場合は、直前の記号も判断材料とし、〈(f→)più f〉などと示した。

## 3 各交響曲について

前章の条件で調査を行い、結果を交響曲ごとに表をまとめた。楽譜は、ヘンレ原典版スタディスコアHN9851<sup>(1)</sup>、HN9853<sup>(2)</sup>、HN9855<sup>(3)</sup>およびHN9856<sup>(4)</sup>を使用した。表にある小節番号もこの版によるものとする。

楽曲中のある場所を指す際には〈a小節目のb拍目〉の場合〈a.b〉のように表し、b拍目の拍点以後を表す場合は〈a.b+〉のように示した。また弱起の不完全小節は〈#a〉のように表した。8分の6拍子、8分の12拍子については符点4分音符を1拍とし、2分の2拍子については2分音符を1拍として数えた。

以下、それぞれの交響曲について調査結果とともに注目すべき点について述べていくこととする。

### 3. 1 交響曲第1番

まず《交響曲第1番》についてであるが、表1の通りであった。

表1 交響曲第1番 調査結果

楽章	場所	Hr.	Trp.	Trb.	木管楽器	弦楽器
1	41.2 - 42.1	f (1st,2nd) ff (3rd,4th)	f		ff	ff
	63.2 - 70.1	f	f		( f → ) più f → ff	( ff → ) più f → ff
	79.1+ - 84.1	mf	p		f	f
	84.2 - 99	f	f		ff	ff
	101 - 105.1	pp			p	p
	189 (2番括弧内) - 197.1	f			ff	ff
	232.2 - 242	f			ff	ff
	248.2 - 268	f	f → mf		ff	ff
	269 - 270	p				mf
	321 - 327.1	f	f		ff	ff
	327.2 - 343.1	ff	f		ff	ff
	352.2 - 358.1	ff (1st,2nd) f (3rd,4th)	f		ff	ff
	367.2 - 370.1	( f → ) più f (1st,2nd) f (3rd,4th)			( ff → ) più f	( ff → ) più f ( f → ) più f (Cb.)
	430.1	pp				p
	451.1,453.1,455.1	ff	f		ff	ff
2	486 - 489	poco f			f	f
	3 - 4.2+	p			pp	pp
	25.2 - 25.3		mf decresc.			( pp → ) rf decresc.
	95 - 96.2	f (1st) mf (2nd)	mf		f	f

楽章	場所	Hr.	Trp.	Trb.	木管楽器	弦楽器
2	97	pp			p	p
3	69 - 70.1	pp			p	p
	85.1+ - 86	mf	mf		f	f
	103.1, 106.1+ - 108.1	f	f		ff	ff
4	24.2+, 25.4+	p	p		(f →) dim.	(f →) dim.
	#62 - 69.3	p				poco f (Vn., Va.) mp (Vc., Cb.)
	94 - 95.3, 97.4 - 99.3	f	f		ff	ff
	101.2 - 106.1					
	148 - 149	f			ff (CFg.のみ)	ff
	254 - 256	pp			p	p
	279.1+ - 284	f	f	f	ff	ff
	308.2 - 310.1	mf			f	f
	371 - 375.1			pp (1st, 2nd) pp → p (3rd)	p	p
	392 - 401.1	f	f	f	ff	ff
	403 - 406	f (1st, 2nd) p (3rd, 4th)	f		ff	ff

第1楽章252小節目からは、木管・弦楽器がすべてffなのに対してホルンはf、トランペットはmfとなっている。金管セクションの中でも楽器により差がつけられている一例である（譜例3）。また、第4楽章の279小節目では他のセクションがffであるなか、金管楽器とティンパニのみfである。ここではさらにマルカートの指示も避けられていることがわかる（譜例4）。

Example 3 shows measures 252-254. The woodwinds (W.W.) and strings (Str.) are marked *ff*. The horns (Hrns.) are marked *f*, and the trumpets (Trps.) are marked *mf*. The woodwinds also include Fl., Ob., Cl., and Fg., Cfg.

譜例3 交響曲第1番 第1楽章（252-254小節目）

Example 4 shows measures 279-280. The woodwinds (W.W.), horns (Hrns.), trumpets (Trps.), trombones (Trb.), and strings (Str.) are marked *ff*. The timpani (Timp.) is marked *f*. The woodwinds also include Fl., Ob., Cl., Fg., and Vn., Va., Vc., Cb.

譜例4 交響曲第1番 第4楽章（279-280小節目）

### 3. 2 交響曲第2番

続いて《交響曲第2番》については、表2の通りであった。

表 2 交響曲第 2 番 調査結果

楽章	場所	Hr.	Trp.	Trb.	Tu.	木管楽器	弦楽器
1	44 - 45.1	p		pp		p	p
	134.3 - 136.1	ff	ff	f	f	ff	ff
	136.2 - 149.1	poco f (1st, 2nd) mf (3rd, 4th)				poco f → f	poco f
	149.2 - 152.1	poco f (1st, 2nd) mf (3rd, 4th)				poco f (Fl., Ob., Fg.) f (Cl.)	poco f
	162.1	pp				p	p
	224 - 235	f	f	f	f	ff	ff
	250 - 254.1	p (254.1のみ)		fp	fp → pp	f	( ff → ) sf → mf
	262 - 265			f → dim → p	f		ff → dim. → p
	266 - 269	p		p	pp	mf/p	p
	270 - 273			pp	pp	mp	p
	274 - 277	p		p	pp	p	p
	298.1	( f → ) sf (1st, 2nd) fp (3rd, 4th)	( f → ) sf	fp (1st, 2nd) ( f → ) sf (3rd)		f dim (Fl. 1st, Cl. 1st) ( f → ) sf (上記以外)	( f → ) sf (Vn., Va) ( f → ) sfp dim. (Vc., Cb.)
	323 - 327	pp				p	p
	402.3 - 404.1	ff	ff	f	f	ff	ff
	412.2 - 413.1	poco f	mf			poco f	poco f
	417 - 420.1	poco f (1st, 2nd) mf (3rd, 4th)	mf			f (Fl., Ob.) poco f (Cl., Fg.)	poco f
	441.2 - 444	pp				p	p
2	#1 - 2.3	poco f			p	poco f	poco f
	2.4 - 3	p		pp	p	p	poco f (Vc.) poco f → p (Cb.)
	13 - 14.3	mf				poco f	poco f
	49.1	f	f	sf	sf	f	f
	51.1	f	f	sf	sf	f	f
	64.4 - 65.2+	p			pp	p	p
	69.4 - 73.2+	p	pp	p	p	p	p
	77.3 - 78	p				pf (77.2に表示)	poco f
3	26.3+ - 28	pp				p	p
	116.3 - 118.2	mf				f	mp
	217 - 218	pp				p	p
	219 - 224	pp				p	p
4	38 - 55	f	f			ff	ff
	202.1+ - 205.1+	f		f	f	ff	ff
	363 - 374	f	f	f	f	ff	ff
	397 - 416	f	f	f	f	ff	ff

ブラームスは4つの交響曲のうち、第2番にのみチューバを用いているが、第1楽章の266小節目や第2楽章冒頭（譜例5）では、チューバにのみ異なる記号が指示されている。

また第2楽章49小節目や51小節目では、トロンボーン、チューバ、ティンパニにsf、他の楽器にはfという設定がされている。ここでは音の長さでもこれらの楽器が特別に強調されていることがわかる（譜例6）。

W. W. Fl., Ob. *p*

Hrn. (H) 1, 2 *poco f*

Trb. 1, 2 *pp*

Trb. 3 Tu. *p*

Str. Vc. *poco f* *espressivo*

Va. *poco f*

Cb. *poco f*

譜例 5 交響曲第 2 番 第 2 樂章（冒頭）

FL, Ob. *poco f*

49

W, W

*f*

*Fg. f*

Hrn. (H) 1, 2

*f* *poco f*

Trp. (H) 1, 2

*f*

Trb. 1, 2

*f*

Trb. 3  
Tu.

*f*

Temp.

*f*

Vn. *f*

Str.

Va., Vc. *f* *poco f*

Cb. *f*

譜例 6 交響曲第 2 番 第 2 樂章 (49 小節目)

### 3. 3 交響曲第3番

《交響曲第3番》については、表3の通りであった。

表3 交響曲第3番 調査結果

楽章	場所	Hr.	Trp.	Trb.	木管楽器	弦楽器
1	19 - 20	f	f	fp	f (Fl.,Ob.,Cl.) (p cresc. →) sf (Fg.,Cfg)	f (Vn.,Va.) ( p cresc. →) sf (Vc.,Cb)
	178.2+ - 180	f	f		ff	ff
	199 - 202	f	f	f	ff	ff (Vn.,Cb.) ( f →) più f (Va.,Vc.)
2	121.2 - 122.1	p		pp	p	p
3	136.3 - 148	pp			p	mp (1st Vn.) p (2nd Vn.,Va.,Cb.) p → mp (Vc.)
4	46 - 50.1	ff (1st,2nd) f (3rd,4th)	f		ff	ff
	70.2 - 80	f	f	f	ff	ff
	85 - 87.1, 92 - 92.2	ff	ff	f	ff	ff
	145.2 - 148.2	f	f		( f →) più f	( f →) più f
	159 - 164.1	f (1st,2nd) ( f → ) più f (3rd,4th)	( f →) più f	( f →) più f	( f →) più f	( f →) più f
	186.1+ - 187	ff	f		ff	( ff →) più f
	213.2 - 214.1	ff	ff	f	ff	ff
	223	( ff →) sff	( ff →) sf	( f →) sf	( ff →) sff	( ff →) sff
	227 - 229.1	ff	ff	f	ff	ff
	233 - 233.2	ff	ff	f	ff	ff
	254 - 254.2	pp			p	p
	269 - 270	mf			f	f
	271 - 274	p (1st,2nd) pp (3rd,4th)			p	p
	277 - 280.1	p		pp		p (Vn.) ( p →) più p → p (Va.) ( p →) più p (Vc.)

前述した2つの交響曲に比べて、〈金管楽器に特別な強弱記号が設定されている箇所〉は少なく、そのほとんどは第4楽章に集中していた。第4楽章223小節目では、sf（トランペット、トロンボーン、ティンパニ）とsff（その他の楽器）により変化をつける手法が採用されている（譜例7）。

The image shows a page of a musical score for Symphony No. 3, 4th movement, measures 223-224. The score is written for a large orchestra. The instruments listed on the left are: Fl., Ob., Cl. (Flute, Oboe, Clarinet), W. W. (Woodwinds), Hr. (C) 1, 2 (Horn in C), Hr. (F) 3, 4 (Horn in F), Trp. (F) 1, 2 (Trumpet in F), Trb. 1, 2 (Trombone), Trb. 3 (Trombone), Timp. (Timpani), Vn., Va. (Violin, Viola), Str. (Strings), and Vc., Cb. (Violoncello, Contrabass). The score includes various dynamic markings such as sf (sforzando), sff (sforzissimo), and cresc. (crescendo). The key signature is three flats (B-flat, E-flat, A-flat) and the time signature is common time (C).

譜例7 交響曲第3番 第4楽章（223-224小節目）

### 3. 4 交響曲第4番

最後に《交響曲第4番》については、表4の通りであった。

表4 交響曲第4番 調査結果

楽章	場所	Hr.	Trp.	Trb.	木管楽器	弦楽器
1	85.2+ - 90	mf cresc.			f	f cresc.
	179.2 - 183	f	f		ff	ff
	206.2+ - 209	ff	f		ff	ff
	215.2+ - 218.1 <sup>2)</sup>	ff (1st, 2nd) f (3rd, 4th)	f		f	f
	369.1+ - 371.2	f	f			(f →) più f
	412.2 - 414.1	(ff →) cresc.	f cresc.		(ff →) cresc.	(ff →) cresc.
	420.2+ - 433	ff	f		ff	(ff →) più f
4	9.2 - 12.2	f		f dim.		f
	17.2 - 19.2	p			mp	mp
	24.2 - 25.2	(p →) cresc.	p		(mp →) cresc.	(mp →) cresc.
	146 - 149.1	f		(ff →) sf decresc. p	f	f
	170.2 - 174	ff	f	(f →) sf	ff	ff
	193.2 - 209.1	ff	ff	f	ff	ff
	269 - 272	ff	ff	ff cresc.	ff	ff

《交響曲第3番》よりも〈金管楽器に特別な強弱記号が設定されている箇所〉はさらに減り、やはり第4楽章に集中していた。トロンボーンにのみそれぞれdim., decresc., cresc.が設定されている点が特徴的で、特に第4楽章269小節目のトロンボーンのみがcresc.する箇所は際立っており、明らかにこの楽器が特別に扱われている<sup>3)</sup>（譜例8）。



The image shows a musical score for measures 269-274 of the 4th movement of Brahms' Symphony No. 4. The score is for woodwinds (W.W.), horns (Hrn.), trumpets (Trb.), and strings (Str.). The woodwinds section includes Flute (Fl.), Oboe (Ob.), Clarinet (Cl.), and Bassoon (Fg.). The horns section includes Horns (Hrn.) and Trumpets (Trb.). The strings section includes Violins (Vn.), Violas (Va.), and Cellos/Double Basses (Vc., Cb.). The score features various dynamic markings: (ff) for fortissimo, cresc. for crescendo, marc. for marcato, and a2 for a second octave. The woodwinds and strings are marked with (ff) at the beginning of the section. The horns and trumpets are marked with (ff) and cresc. at the beginning, and marc. and a2 later in the section.

譜例 8 交響曲第4番 第4楽章 (269-274小節目)

#### 4 まとめ

以上から、次のことが明らかになった。まず、〈金管楽器に特別な強弱記号が設定されている箇所〉はすべての交響曲に表れていた。楽曲の規模や編成の違いから単純な比較は難しいものの、時代が進むにつれてこうした箇所は減少する傾向にあった。用法としては、金管楽器（およびティンパニ）に *f*，他は *ff* という箇所が多かったが、金管楽器の中でも楽器により異なる箇所や、*cresc.* など強弱の変化を表す記号を特定の楽器に付けている箇所もみられた。これらはブラームスが意図して特別な配慮を求めた、あるいは特別な音色や表現を狙ったものであろう。強弱記号は相対的な音の大きさを表すものであるため、パート譜からの情報だけではこれらの用法を演奏に反映させるのは難しい。本稿で述べたことを奏者が意識して演奏することで、より作曲者の意図を反映した音楽表現が可能になるだろう。

#### 注

- 1) 譜例では、木管楽器 (W.W.) および弦楽器 (Str.) は実音で大譜表などに集約して示した。
- 2) この箇所は、1番・2番ホルンの強弱記号が単に抜け落ちている可能性も考えられる。
- 3) トロンボーンには *cresc.* の後291小節目まで強弱記号が無いが、*cresc.* の有効範囲を272小節目までとした。

#### 参考・引用楽譜

- (1) J.Brahms Symphonie Nr.1 c-moll opus 68 Urtext, Herausgegeben von Robert Pascall, Studien Edition, G.Henle Verlag, 1997 (HN9851)
- (2) J.Brahms Symphonie Nr.2 D-dur opus 73 Urtext, Herausgegeben von Robert Pascall und Michael Struck, Studien Edition, G.Henle Verlag, 2004 (HN9853)
- (3) J.Brahms Symphonie Nr.3 F-Dur opus 90 Urtext, Herausgegeben von Robert Pascall, Studien Edition, G.Henle Verlag, 2006 (HN9855)
- (4) J.Brahms Symphonie Nr.4 e-moll opus 98 Urtext, Herausgegeben von Robert Pascall, Studien Edition, G.Henle Verlag, 2012 (HN9856)

# Dynamics Marks of Brass Instruments in the Symphonies of J. Brahms

Masanori HASEGAWA\*

## ABSTRACT

This study focuses on the dynamics marks indicated for brass instruments in the four symphonies by J. Brahms. The differences from either the woodwind or string instruments were positioned as parts that are defined with special dynamics marks for brass instruments, and how they appeared in the said symphonies was researched.

We obtained the following results. Firstly, the parts that are defined with special dynamics marks for brass instruments were visible in all the symphonies. In addition, such parts tended to decrease with the progress of time. Even though markings with “f” for brass (and timpani) and “ff” in others were seen frequently, there were also differences in the instruments among the brass section, as well as in places that were marked with symbols that represent the changes of intensity in order to indicate the differences.

For the parts such as those that Brahms requested special attention, it may be possible for a performer to reflect this intent in his musical expressions by performing them with the above in mind.

---

\* Music, Fine Arts and Physical Education